

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	認知・行動科学（認知科学分野）
教員	教授：齋木 潤（認知科学）・小村 豊（システム神経科学）・月浦 崇（認知神経科学）・熊田孝恒（情報学研究科：心理情報学） 准教授：中島亮一（情報学研究科：応用認知心理学）
1回生	<p><全学共通科目> 心理学Ⅰ／脳と生命のシステム科学／脳・生命・心の探求／生命と情報／神経科学の基礎／統計入門／プログラミング演習／英語ライティングーリスニングAなど</p> <p><学部科目> 認知心理学Ⅰ・Ⅱ（知覚・認知心理学）／神経心理学Ⅰ・Ⅱ（神経・生理心理学）／視覚科学基礎ゼミナール／神経心理学基礎ゼミナール／基礎演習：視覚科学／基礎演習：神経心理学／心理学研究法／心理学概論</p> <p>将来配属を希望する教員によって推奨する科目があるので、個別に担当教員に問い合わせることを期待する。上記科目は2回生でも可。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 英語ライティングーリスニングB／数理統計／上記1回生の欄に記載されている全学共通科目など</p> <p><学部科目> 視覚認識論／視覚認識論演習／記憶機能論／記憶機能論演習／応用認知心理学／応用認知心理学演習／（システム脳科学）／（システム脳科学演習）／脳と心の生命機能ゼミナールⅠ・Ⅱ／心理学実験</p> <p>将来配属を希望する教員によって推奨する科目があるので、個別に担当教員に問い合わせることを期待する。上記科目は3回生でも可。*カッコ内の科目は隔年開講のため、令和6年度には開講しません。</p>
3回生	<p><学部科目> 視覚認識論ゼミA・B／記憶神経科学ゼミA・B／心理情報学ゼミA・B／認知科学実験</p> <p>指導教員の決定に向けて、前期の早い時期から配属を希望する教員にコンタクトを取って相談をすること。また、上記以外にも配属希望教員によって推奨する科目もあるため、担当教員に相談をすること。</p>
4回生	<p>就職活動などの場合を除き、平日は原則的に毎日研究室に顔を出し、各研究室の担当教員と相談した上で、卒業論文に関連する研究を進めること。 およそのスケジュールとしては、前期は、卒業論文に関連する研究計画の立案と倫理委員会の承認、予備実験・本実験を行い、同時に卒業論文に関する文献調査も随時行う。後期は、実験をさらに進めると同時に、データの解析を行ったうえでその結果を考察する。それらの作業を通して、最終的に卒業論文を執筆する。</p> <p>卒業論文の研究は日々の積み重ねが大切であり、一朝一夕に完成するものではない。卒業研究は授業レポートとは異なり、列記とした研究である。したがって、非常に多くの時間と労力が必要であることを肝に銘じ、毎日を過ごすことを期待する。</p>
<p>1回生では、全学共通科目や基礎ゼミ等を通して、心理学、神経科学に関する基礎的な素養を身につけるとともに、将来の研究を実施するためのスキルとしての統計、プログラミング、英語などの学習に力をいれるようにしてください。</p> <p>2回生では、卒論担当教員が実施する講義や演習の専門科目を通して、将来所属したい研究室で実施している研究内容の実際を知ると同時に、研究スキルのさらなる向上をめざすようにしてください。</p> <p>3回生では、所属する研究室を決定するため、指導を希望する教員が開催しているゼミ科目に参加し、研究内容を専門的に理解することをめざしてください。また、卒業研究を実際に実施するためのスキルとして、認知科学実験を履修するようにしてください。</p> <p>4回生では、日常的な研究室での活動をベースとして、卒論研究のテーマ設定し、実験および解析を実施し、卒業論文の執筆を行うことに取り組んでください。</p>	

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	認知・行動科学（行動制御学分野）
教員	教授：神崎 素樹（運動制御学）・久代 恵介（行動制御学）准教授：萩生 翔大（神経生理学・運動学習）
1回生	<p><全学共通科目> 運動科学Ⅰ／体力医科学／運動の生理学／運動のしくみ／身体運動の適応と学習／スポーツ心理学／スポーツ実習Ⅰ <学部科目> 認知・行動科学入門</p>
	<p>運動や健康に関する基礎科目について履修するのが望ましい。 上記科目は2回生でも可。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 脳と身体運動ゼミナール／スポーツ実習Ⅱ</p>
	<p>生理学・運動学・心理学のより専門的な科目を履修すること。 上記科目は3回生でも可。</p>
3回生	<p><学部科目> 行動制御実験演習／運動制御ゼミA・B／行動制御ゼミA・B</p>
	<p>指導教員の決定に向けて、前期の早い段階から配属を希望する教員にコンタクトをとるようにしてください。</p>
4回生	<p><前期> 配属先の研究室において、研究室ミーティングなどに参加すること。卒論担当教員とよく相談し、研究計画を立案し、倫理委員会に申請・承認を得ること。また、卒業研究に関連する文献調査も行う。 <後期> 本実験を行う。同時に解析も行い、不十分な点はさらに実験を行う。実験と解析を通して、卒業論文を執筆する。</p>
	<p>卒業研究は、皆さんにとっておそらく初めて「本当の学問」に接する機会だと思います。</p>
<p>1回生では、全学共通科目や認知・行動科学入門を通じて、運動や健康に関する基礎的な知識を身につけます。 2回生では、運動や健康に関してさらに専門的な知識を身につけます。 3回生では、運動制御、行動制御、神経生理に関する知識だけでなく、実験の技術を磨きます。 4回生では、卒業研究の執筆を行います。</p>	

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座	
学系	認知情報学系	
関係・分野	認知・行動科学 (身体機能論分野)	
教員	教授：林 達也（健康科学/運動医科学/内分泌代謝学） 助教：江川 達郎（分子健康科学/運動生物学/骨格筋生物学）	教授：船曳 康子（こころの発達/発達障害/メンタルヘルス/精神医学）
1～2回生	<p><全学共通科目> 健康科学/スポーツ実習 リレー講義：ILASセミナー：障害とは何か/環境学</p> <p><学部科目> 生活習慣と生体機能障害（人体の構造と機能及び疾病）/分子運動医科学ゼミ/応用運動医科学ゼミ リレー講義：認知・行動科学入門</p>	<p><全学共通科目> 健康心理学I <学部科目> 基礎演習：心の発達ゼミ/精神保健福祉概論（関係行政論）/心の発達と問題行動の理解（司法・犯罪心理学） リレー講義：認知・行動科学入門、心理学研究法 （注）心理学実験、文学部開講の心理学統計法などの統計の授業を履修しておく、卒業研究時に役立つことが多い。</p>
	<p>「こころのはたらきと健康・疾患」に関連する授業を船曳が、「からだのはたらきと健康・疾患」に関連する授業を林が担当します。最初からどちらか一方に決めるのではなく、両方の授業を広く履修して、「こころとからだ」についての幅広い知識を身に付けてください。また、スポーツ実習、特に、心身の健康増進に重きを置いた科目（「フィットネス・ウォーキング」など）や、車いすバスケットなどの障害者スポーツ、身体活動能力にかかわらず楽しむことができるよう工夫・適合（adapt）されたレクリエーションスポーツを体験することができる「アダプテッドスポーツ」の履修を推奨します。</p>	
3～4回生	<p><学部科目> 「分子運動医科学ゼミ」と「応用運動医科学ゼミ」は、「健康科学I」および「生活習慣と生体機能障害」を履修しておくことより理解しやすい。このため、両ゼミを3回生になってから履修してもよい。</p>	<p>1～2回生で履修した内容を土台に、研究室にて、認知機能や行動面、またそれらの発達に関する実践的な卒業研究を行う。</p>
	<p>林あるいは船曳の専門分野に興味のある学生には、希望に応じて、3回生前期から、卒業論文作成あるいは修士課程進学に向けた専門的学習指導・研究指導を行う。</p>	
<p>3、4回生のみならず、希望があれば、1、2回生からの専門的学習指導や研究指導も受け付けています。詳細は林または船曳に直接に連絡をとって説明を受けてください。</p>		

《履修モデル》

講座	1.数理・情報科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	数理情報論 (数学分野)
教員	教授：上木直昌 (確率解析) 足立匡義 (偏微分方程式論・数理物理) 角大輝 (力学系・フラクタル) 木坂正史 (複素力学系) 准教授：林雅行 (偏微分方程式論)
1回生	<p>【コア科目】 <全学共通科目> 微分積分学 (講義・演義) A・B / 線形代数学 (講義・演義) A・B</p> <p>【関連科目】 <全学共通科目> 情報基礎演習 [全学向] <学部科目> 情報数学I・II <他学部科目> 現代数学の基礎A・B (理学部)</p> <p>・特に「微分積分学 (講義・演義) A・B」と「線形代数学 (講義・演義) A・B」はすべての数学の基礎であり、情報科学のためにも重要です。1回生のときに十分時間をかけて学んでください。 ・「情報基礎演習 [全学向]」はTeXの演習を含むものを推奨します。 ・理学部の科目「現代数学の基礎A・B」は、「微分積分学 (講義・演義) A・B」の内容を更に厳密に講義するもので、将来数学を専攻する学生向けのものです。</p>
2回生	<p>【コア科目】 <全学共通科目> 微分積分学統論I-ベクトル解析 / 微分積分学統論II-微分方程式 / 線形代数学統論 / 関数論 / 数理論理学A・B <他学部科目> 集合と位相・同演習 (理学部)</p> <p>【関連科目】 <全学共通科目> 確率論基礎 <他学部科目> 解析学入門演習 (理学部)</p> <p>・理学部・工学部等で開講されている数学・情報科学関連の科目も16単位まで主専攻科目として認められるので、積極的に履修してください。</p>
2~3回生	<p>【コア科目】 <学部科目> 実解析A・B (隔年) / 複素解析 (隔年) / 数理現象論A・B (隔年) / 数理構造論A・B (隔年) / 計算と位相 / 数理科学ゼミナール (重複履修可) / 数理科学特論・II・III (集中講義)</p> <p>【関連科目】 <全学共通科目> 非線型数学 / 非線型数学セミナー <他学部科目> 代数学入門・同演習 (理学部) / 幾何学入門・同演習 (理学部)</p> <p>・「複素解析」は「関数論」を履修した後に履修するのが望ましいです。 ・理学部の科目「解析学入門演習」「代数学入門演習」「幾何学入門演習」は問題演習を小テスト形式で行う科目です。数学を専攻したい学生は是非履修することを勧めます。 ・総合人間学部の専門科目は隔年開講の科目が多いので、2回生から注意して履修するようにしてください。</p>
4回生	<p>【コア科目】 <学部科目> 数理科学論講究 / 数理科学特論・II・III (集中講義)</p> <p>・「数理科学論講究」は卒業研究に並行して専門的内容を学ぶための科目です。</p>
	<p>・将来どのような研究を行うにもここに掲げた「コア科目」は重要ですので、可能な限り履修してください。必要と興味に応じて「関連科目」も履修してください。 ・数学や情報科学を学ぶ理想的な形態はセミナーです。卒業研究指導もセミナー形式で行われます。「数理科学ゼミナール」はセミナー形式に早い段階で触れる機会として設けられていて、2~4回生の間に複数回履修することができるので、なるべく早いうちに、可能な限り2回生で是非受講してください。 ・「数理科学特論・II・III」は、学外から招いた講師による1週間の集中講義です。特定のテーマについて基礎的な部分から先端的な内容までを紹介します。 ・卒業研究に関連することを含め、履修について教員に気軽に相談してください。 ・過去の卒業研究の論文を学部教務掛で参照することができます。興味を引きそうなものを読んでみることをお勧めします。</p>

《履修モデル》

講座	1.数理・情報科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	数理情報論 (情報)
教員	<p>教授：立木秀樹（理論計算機科学・ゲームの情報と数理） 日置尋久（メディア情報処理） 准教授：櫻川貴司（プログラミング言語・機械学習） de Brecht, Matthew（数理論理学・計算理論） 特定講師：Thies, Holger（計算理論・計算量理論・数理論理学の応用）</p>
1回生	<p><全学共通科目> 情報基礎[全学向] / 情報ネットワーク 微分積分学(講義・演義)A・B / 線形代数学(講義・演義)A・B 情報基礎演習[全学向] / 統計入門 <学部科目> 情報数学I・II</p> <p>・「情報基礎演習[全学向]」は、TeX の演習を含むものを推奨します。 ・「微分積分学(講義・演義)A・B」と「線形代数学(講義・演義)A・B」は情報科学のためにも重要です。1回生のときに十分時間をかけて学んでください。</p>
1～3回生	<p><全学共通科目> プログラミング演習(Ruby) / コンピュータグラフィックス実習 プログラミング演習(Java) / プログラミング演習(数理的応用) <学部科目> 計算と位相 プログラミング演習(Lisp) / プログラミング演習(Haskell) (隔年) 基礎演習：Introduction to Logic, Proofs and Programs</p> <p>・「コンピュータグラフィックス実習」は Ruby, 「プログラミング演習(数理的応用)」は Python を用いた演習科目です。 ・プログラミング演習系科目は、1～3回生の間に3つ以上の言語について学習することを推奨します。</p>
2～3回生	<p><全学共通科目> 数理論理学A・B 確率論基礎 / 集合と位相(理学部開講科目) <学部科目> 計算論(隔年) 計算機科学の基礎A・B(隔年) / 情報処理の方法と演習A・B(隔年) 機械学習の基礎(隔年) / 人工知能(隔年) 数理科学ゼミナール(重複履修可) 数理科学特論I・II・III(集中講義)</p> <p>・総合人間学部の専門科目は隔年開講の科目が多いので、2回生から注意して履修するようにしてください。 ・自然群・データ科学分野に分類されている全学共通科目は専門に役に立つものが多いです。できるだけ履修してください。 ・理学部・工学部で開講されている数学・情報科学関連の学部専門科目も16単位まで主専攻科目として認められます。積極的に履修してください。 ・数学や情報科学を学ぶ理想的な形態はセミナーです。卒業研究指導もセミナー形式で行われます。「数理科学ゼミナール」はセミナー形式に早い段階で触れる機会であり、複数回履修できます。 ・数理科学特論・II・III(集中講義) は、それぞれ順に3年に1回開講されます。</p>
4回生	<p><学部科目> 数理科学論講究 / 数理科学特論I・II・III(集中講義)</p>
<p>・過去の卒業研究の論文を学部教務掛で参照することができます。興味を引きそうなものを読んでみることをお勧めします。 ・情報は、学際的な研究の可能性のある分野です。この学系の他分野や、他学系にも興味を広げてください。 ・卒業研究に関連することを含め、履修について教員に気軽に相談してください。</p>	

《履修モデル》

講座	5.言語科学講座	
学系	認知情報学系	
関係・分野	言語科学（言語情報科学分野）	言語科学（言語比較論分野）
教員	教授：谷口 一美（認知言語学・構文文法論） 教授：守田 貴弘（類型論・意味論・フランス語学） 准教授：Ginsburg, Jason（言語学理論・統語論・計算言語学）	教授：河崎 靖（比較言語学・ゲルマン語学） 准教授：西脇 麻衣子（ドイツ語学） 准教授：堀口 大樹（スラブ語学）
1回生	<全学共通科目> 言語科学Ⅰ・Ⅱ <学部科目> 言語科学入門 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ	<全学共通科目> 言語科学Ⅰ・Ⅱ <学部科目> 言語科学入門 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ
	初歩的入門レベルの授業としてまず上記の科目を履修し、言語科学の考え方に親しむ。言語科学の関連領域は膨大であり、哲学・論理学・心理学・社会学・人類学・脳科学・認知科学・生物学・計算機科学等から、各自の関心に応じて選択し同時に履修することが望ましい。外国語科目は積極的に履修すること。	
2回生	<全学共通科目> 言語科学Ⅰ・Ⅱ <学部科目> 言語科学入門 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ	<全学共通科目> 言語科学Ⅰ・Ⅱ <学部科目> 言語科学入門 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ
	多様な専門講義科目やゼミナールの履修を通じて、関心を持つことのできる分野やテーマを探そう心がける。	
3回生	<学部科目> 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ	<学部科目> 言語構造機能論 言語認知論 言語比較論Ⅰ・Ⅱ 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ
	研究テーマを絞り込み、指導教員と相談しながら、そのテーマを深く掘り下げることを心がける。卒業に必要な単位は3回生までに取得し、4回生では卒業論文作成に集中することが望ましい。	
4回生	<学部科目> 言語構造機能論演習 言語認知論演習 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ	<学部科目> 言語比較論演習Ⅰ・Ⅱ 言語科学ゼミナールⅠ・Ⅱ
	演習・ゼミナールを受講し、卒業論文作成に注力する。	
<p>言語はこの地球上で私たち人間だけが持つ心的能力であり、思考やコミュニケーション、科学、文化などあらゆる知的活動の基盤となるものです。その言語を対象とする言語科学は一種のメタ科学であるとも言え、人間の心や人間性そのものを理解することがその大きな目標です。総合人間学と呼びにふさわしい研究領域だとも言えるでしょう。</p> <p>学生の皆さんには、普段何気なく使っている母語や学習している外国語についての素朴な疑問をきっかけにして、言語の特質や不思議さを理解し、また言語科学の幅広さや奥深さを楽しんでもらいたいと思います。</p> <p>言語科学関係の教員はそれぞれがユニークな研究テーマを持って精力的な研究活動を行っています。できるだけ多くの講義を聴き、自分の興味・関心に合ったテーマを見つけてください。</p>		

《履修モデル》

学系	認知情報学系
関係・分野	外国語教育論
教員	教授：西山 教行 准教授：中森 誉之、ピーターソン, マーク
1回生	<p>・全学共通科目：「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」など。 ・専門科目：英語科教育職員免許状必修科目の英語学習指導論または英語統合技能論（隔年開講のため1回生から履修可能です）。</p> <p>教育学、心理学、言語学、社会学など、人文社会系の教養科目は、基礎的な見識を培うためには必要不可欠です。貪欲に学んでください。英語力の維持、向上にも真剣に取り組みましょう。</p>
2回生	<p>・言語教育政策論（講義・演習）、英語コミュニケーション論、英語学習指導論（偶数年度）、英語統合技能論（奇数年度） ・教科に関する科目：「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」など ・教職に関する科目：「教職教育論」「教育方法論」「英語科教育法」「道徳教育論（中学）」など</p> <p>教職科目を履修する場合、他の仲間たちとは比べものにならないほどの授業数になります。教育を専門に考えるためには必要不可欠な過程です。この意味では、一つの分野や課題に絞ってそれだけを学んでいれば済む、ということはありません。したがって、特定の講義名を列記することは不可能です。教育系が広域科学たるゆえんです。</p>
3回生	<p>外国語学習・教育・政策を考究する上で、教育職員免許状科目に準じて履修することを強く勧めます。教育の全体像を多角的かつ複眼的に理解した上で、自らの研究課題を見つけ出すことが大切であるからです。「教科に関する科目」「教職に関する科目」などを継続して履修し、介護体験（2回生から可能）や教育実習に向けた準備を進めましょう。</p> <p>英語の場合、「教科に関する科目」はすべて総合人間学部提供の授業において取得することが可能で、そのほとんどが2回生から履修できます。しかし、「教職に関する科目」は教育学部開講なので、総人の履修登録とは別に教育学部で教職科目専用の履修登録をする必要があります！注意しましょう。</p>
4回生	<p>卒業論文では、外国語の学習、教育、政策などの分野で、興味関心事項を考察することになります。研究論文に必要な教育現場での実証研究などは、修士課程以降の必須条件ですので、卒論では求めません。基本的には、興味関心事項に対する観察・記述・分析・説明を、文献研究、資料解析などで深めることを期待します。何よりも一人一人の問題意識を重視しますが、卒業論文は意見・感想文ではないことにご留意ください。分野所属教員の授業やゼミをとおして見識を高め、疑問点を基に相談してください。</p> <p>実習や就職活動などで多忙となります。貴重な時間を有効的に活用してください。履修漏れがないように注意してください。</p>
<p>● 皆さんには、いくつかの外国語を学習した経験があります。今までは、学習者の立場で教材・教具を活用し、経験知に基づいた勉強をしてきました。しかし、それは本当に「効果的かつ効率的」でしたか。勉強の結果、どのような力が定着しましたか。客観的に省察してみましょう。</p> <p>● 外国語教育論分野では、外国語とは何か、国によって施策は異なるのか、なぜ外国語を学ぶのか、どのように外国語を学ぶのか、外国語を学ぶと何か変わるのか、といった素朴な疑問から出発し、学術として深く考究します。そのため、教員養成はもちろん、国内外の教育行政機関、教材・教具開発など、外国語に関わる広大な領域を射程に入れて、日々の研究教育を行っています。</p> <p>● 総合人間学部は、外国語教育学を学ぶには最高の環境です。教育学部でも文学部でもありません。文学、言語学、心理学、社会文化論などの専門家が多数在籍しており、教員養成大学はもちろん、いかなる教育系大学の追従を許しません。これを存分に生かせるのかは、あなた次第です。</p>	